

キンミズヒキ

Agrimonia japonica

バラ科

名前の由来

細長い黄色の花穂を、金色の水引にたとえて名付けられた。水引は、のし袋などに使われる紅白や金銀に染め分けられたひものことを指す。タデ科のミズヒキもある。
漢字名：金水引



キンミズヒキ

形態的特徴

高さ40～120cmで全草に軟毛があり、茎や柄に特に多い。葉は羽状に、大小混ざった小葉に分かれ（奇数羽状複葉）、縁に粗い鋸歯がある。葉の基部に大型の托葉があり、茎を抱く。花は径7～10mm、花びら（花弁）は5枚で、上部の分岐した茎の先に穂状につく（花序は細長い穂状になる）。

実にはかぎ型の毛が多数あり、動物や人の衣類について運ばれる。

類似種：特に無い。



キンミズヒキ



キンミズヒキの実にはかぎ状の毛が多くはえる



キンミズヒキの葉。円内で一つの葉（羽状複葉）

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■								
結実期				■								

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）草花

（外来種）草花

哺乳類

（水辺）鳥類

（草原・森林）鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

原野や林内、道端などで普通に見られる。

分布：国外分布は、南千島・樺太・ウスリー・朝鮮・中国・インドシナ。

国内分布は、北海道から九州。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、原野や林内、道端などで普通に見られる。

生活史

開花時期：7月中旬～9月

開花までの年数：不明

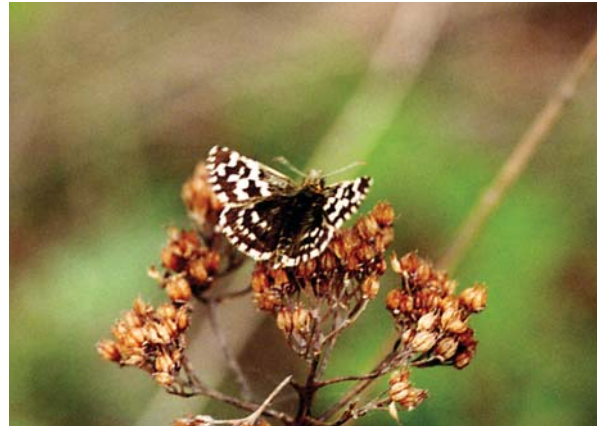
寿命：多年草。

他生物との関わり

実にかぎ型の毛が多数あり、動物や人の衣服について運ばれ、分散される。チャマダラセセリの幼虫の食草となっている。



キンミズヒキ。実の時期には花序は長く伸びる



チャマダラセセリ。幼虫時、キンミズヒキを食草とする

(撮影-吉原利之)

興味深い話

■全草にタンニンを多量に含み、薬効として下痢止め、止血、利胆作用がある。夏の花がさかりのころに全草を細かく刻み、日干しにして用いる。また湿疹、かぶれ、火傷に煎じた汁を冷やして湿布すると効果がある。

■若葉や若芽が食用となり、ゆでておひたしや油炒めにして食べるとおいしい。

■十勝地方のアイヌ語では「イパコカリナ」という。



キンミズヒキ



キンミズヒキ。若芽は山菜として食べられる

配慮事項

生育している環境全体が重要である。

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙譲 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本II」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「新版 北海道山菜図鑑」佐藤孝夫・小林隆正・久保秀樹 亜璃

西社 2002

「北海道薬草図鑑 野生編」山岸喬 北海道新聞社 1992

「北見の蝶 木村辰正」北見市教育委員会 1994

「知里真志保著作集 別巻I 植物編・動物編」知里真志保、平凡社、1976

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類